

第2号様式(第7条関係)

平成21年度政務調査費収支報告書

会派名 民主党








1 収入
政務調査費 900,000円

2 支出 910,768円

(単位 円)

科 目	金 額	主たる支出の内訳
研究研修費	59,460	研修会参加費
調査費	377,786	視察費
資料作成費		
資料購入費		
広報費	372,014	議会活動報告書費
広聴費		
通信費	90,000	FAX代
事務費	11,508	コピー用紙代
その他の経費		
合 計	910,768	

3 残額 0円

議長	副議長	事務局長	次長	係長	係長	係
						
備考						

会派研修終了報告書

研修日	21年10月22日
研修先	(社)日本経営協会主催 講演会
主要調査 研修課題	議員立法の現状と課題
研修終了報告	<p><目的> 条例の議員提案は全体市長提案の5%にとどまっているが、今後は議会に政策立案能力が求められるため</p>
	<p><内容> 平塚市「平塚市民のこころと命を守る条例」を例に、発案者 江口友子平塚市議の講演を聞き、議会事務局長と事務局員の姿勢にも感動した。</p>
	<p><課題> 条例制定後の自殺防止の具体化で条例ができて終わりでも満足ではない。</p>
	<p>氏名 岩佐 いづみ</p>

稲城市議会議長

川島 やすしき 殿

上記のとおり、会派研修を終了しましたので報告します。

平成 21 年 10 月 23 日

会派名 民主党

氏名 伊藤 正実



議員	副議長	事務局長	次長	係長	係長	係
備考						
会派研修終了報告書						

研修日	平成21年10月27～28日
研修先	国際ファッションセンター10階
主要調査	自治体改革
研修課題	第11期自治政策講座in東京2
研修終了報告	分権の現状と地球自律に向けての
	財政論、地方への権限委譲について、学術的見
	地からの解説、また税制改革と自治体財政
	については、政権交替して国政の影響と地方財政
	の方向性についてと総論に学んだ。また各論と
	して、林業と森林保全と山村の活性化、子育て支援
	政策では、相談業の事例、過疎地であり自治体
の自然環境をいかに産業創出に結びつける学んだ。	
参加者	根浦 美佐子
氏名	

稲城市議会議長

川島 やすゆき 殿








上記のとおり、会派研修を終了しましたので報告します。

平成21年 11月 6日

会派名 民主党

氏名 伊藤 正実



議長	副議長	事務局長	次長	休長	休次	休
						
備考						
会派研修終了報告書						

研修日	平成21年5月21日(木)
研修先	ユ-カリが丘 及び 千葉ニュータウン
主要調査 研修課題	多摩ニュータウンとユ-カリが丘及び千葉ニュータウンとの街なみなどの比較の検証を行なう
研修終了報告	民間が開発しているユ-カリが丘は、民間ならではのノウハウと責任をもつて、事業・街づくりをすすめているところが調査おこりが出来た。千葉ニュータウンについては同じURが手がけた街でありながら、地域性・開発手順の違いにより、まちなみが多摩ニュータウンと全く違うことが、現地調査の結果よくわかった。
参加者 氏名	伊藤正実 岩佐いづみ 梶浦美佐子

稲城市議会議長

川島やすゆき 殿








上記のとおり、会派研修を終了しましたので報告します。

平成 21 年 5 月 25 日

会派名 民主党

氏名 伊藤正実



議長	副議長	事務局長	次長	係長	係長	係
						
備考						

会派研修終了報告書

研修日	平成21年10月14日(水)～10月15日(木)
研修先	①青森県弘前市 ②青森県平川市
主要調査	①弘前市エコストア・エコオアシス認定制度及びエコ通勤デー参加事業所登録制度の取り込みについて
研修課題	②学習支援員派遣事業について
研修終了報告	<p>① 市内事業者に対して、エコ意識の向上をはかるための施策も、事業者や従業員の自主的な参加をうながしていた。ポスターの掲示、通勤方法の変更など、いろいろな手段で周知していた。もうひと工夫が欲しい、という感じだった。</p> <p>② 学習支援員として非常勤で市単独で採用し教育現場で活動している。子どもたちのレベルの底上げが目標、と、TTのスタイルでも行われていた。厳しい財源の中、市単独で行なっていることは、十分見習うべきところと感じた。</p>
参加者氏名	伊藤正実、岩佐いづみ、梶浦美佐子

稲城市議会議長

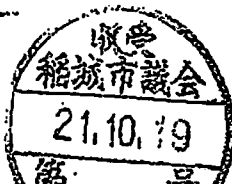
川島 やすゆき 殿




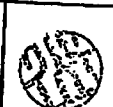

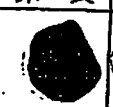

上記のとおり、会派研修を終了しましたので報告します。

平成 21 年 10 月 19 日

会派名 民主党

氏名 伊藤正実



長	副議長	事務局長	次長	係長	係長	係
						
備考						

会派研修終了報告書

研修日	10月28日, 29日, 30日
研修先	大空町
主要調査 研修課題	1. 合併後の議会運営について 2. 東藻琴地区の農業について
研修終了報告	1. 会派は現在も無い。控え室も一つ。 三常任委員会は、女満別地区の議員4人、東藻琴地区の議員が各構成委員となり、かたよりが無い運営をしている。
	2. 東藻琴地区は酪農が主体であり、各農家の経営効率化に、放草の一貫生産管理委託制度と農業ヘルパーが大きく貢献している。
参加者 氏名	岩佐 いかみ

稲城市議会議長

川島 やすゆき 殿

上記のとおり、会派研修を終了しましたので報告します。

平成 21 年 12 月 14 日








会派名

民主党

氏名

伊藤 正実



総長	副議長	事務局長	次長	係長	係長	係
						
備考						

会派研修終了報告書

研修日	平成21年11月9日(月)-10日(火)-11日(水)
研修先	①宮崎県日南市 ②鹿児島県南九州市 ③熊本県八代市
主要調査 研修課題	①「緑と黒潮が育む産業・文化・交流都市」を目指す施策について ②平和事業について(8/15のスピーチコンテストなど) ③八代市電動バイク・自走車購入費補助事業について
研修終了報告	①合併後の新市の基本計画策定における考え方を学んだ。特に「黒潮」という文言を用いたことに着目し、市民が黒潮を心算の中心に置いて行動を起こしている姿があった。我々も稲城の心(梨心)を持って対応すべきことを学んだ。 ②南九州市の平和事業として、8月15日に行なわれたスピーチコンテストは、副賞として30万円が贈呈されるという形をとっており、財源や運営、考え方を伺った。財源は、平和会館の入館料をベースとした平和基金から出していることや、少人数ながらも市民の皆人の手助けによって運営されていることも学んだ。 ③65以上の方を対象として、電動バイク・自走車の購入費補助事業について学んだ。高齢者の外出支援対策として導入された者が多数いて、抽選になった事も、今後65未満も対象にするべき(ecoのため)といった課題がありことを学んだ。地域性の観点から、レンタルではなく、購入費の助成が適当である、といった激論や、細粒状況のチェックも踏まえていることなど、細かいチェックがなされていることを学んだ。
参加者 氏名	伊藤正実

稲城市議会議長

川島やすゆき 殿








上記のとおり、会派研修を終了しましたので報告します。

平成21年11月12日

会派名 民主党

氏名 伊藤正実



議長	副議長	事務局長	次長	係長	係長	
						
備考						

会派研修終了報告書

研修日	平成22年1月27日(水)～1月28日(木)
研修先	①千葉県銚子市 ②総合病院国保旭中央病院(千葉県旭市) ③東京都三市収益事業組合(江戸川競艇場)
主要調査	①銚子市立病院再生について ・市立病院再生に向けた取り組みについて・銚子市立病院再生準備機構について
研修課題	②総合病院国保旭中央病院改革プランについて ③施設改修 ・改革プランの概要について・自治体病院相互の連携や機能分担について (27日)
研修終了報告	別紙のとおり
参加者氏名	伊藤正実 岩佐いづみ 梶浦美佐子

稲城市議会議長

川島 やまゆき 殿

上記のとおり、会派研修を終了しましたので報告します。

平成 22年 2月 3日

会派名 民主党

氏名 伊藤正実



(別紙)

研修終了報告

①一昨年、市立病院の閉鎖でマスコミ等にクローズアップされたいわゆる「銚子ショック」と言われた、銚子市立病院を見学に行った。銚子では、市立病院の是非をめぐってまちを二分した市長選挙まで発展し、市立病院の再開を公約にした現市長が当選した経緯があり、現在では、4月に何らかの形(規模を縮小しても開院する)で再開するための取り組みと、それに基づいた銚子市立病院再生機構についての説明を受けた。

閉鎖になってしまった主な理由としては、①職員の意識の低下②それによるサービスの低下③後述する、隣接地にある国保旭中央病院が地域の基幹的な病院となっており、そちらへ患者が集中していること④銚子市内にも同規模の私立の病院があることなどが挙げられる。

全国で公立病院の経営が悪化し、存続にも苦慮している中で、一度閉鎖した病院の再開は並大抵のことではできないものであることを学んだ。

銚子では、病院再生準備機構を立ち上げたが、幅広く意見をいただくために全国から委員を集めたことで、会議は交通の利便性から東京で開催されており、現場の状況などの把握がなされているのかどうか説明だけでは疑問に思えた。

現場では、1人の医師が、自身の仕事の傍ら再開へ向けての積極的な支援を行っているとの説明があり、この医師が中心となって、4月より何とか診療所程度の規模であっても、再開への道筋をつけてきているところであることであった。

稲城市立病院を取り巻く状況とは、説明を受けたところ若干相違している部分が多かったので安堵したが、稲城市立病院でも「対岸の火事」ではないように思えた。職員一人ひとりが、患者・市民に対して、より高いサービスを目指して日々努力、研鑽を積んでいくこと、行政はその意識を高めることについて、十分バックアップをすることが必要であると感じた。

稲城市民の健康を守る中心・シンボルである市立病院を銚子市のようにならないように、継続・発展させるためにはいい勉強になった。

②千葉県の東部地域の基幹病院となっている総合病院国保旭中央病院を見学に行った。

前述した銚子市立病院がある銚子市の隣にある旭市にあり、現在では旭市自体が、この病院があることで「ホスピタルタウン」と呼ばれるまでの非常に大きな、そして地域に密着した病院である。医師数は約250名、病床数は約950床、職員総数は2千人を超える。また、職員の家族など、この病院に何らかの形で関係する人をあわせると、1万人を優に超えるとの説明を受けた。旭市の人口が約7万人弱ということを考えれば、正に「ホスピタルタウン」と言える所以である。

また旭駅から病院が運行してる無料シャトルバスがあり、患者のことをよく考えた対応を

していた。我々も往復利用したが、非常にありがたいものであった。

旭中央病院の歴史の説明を受けた後、徐々に増築・増設してきたことで、患者などの動線が複雑になっていることから、今般、新病棟を建設し機能性を重視したもの建設している最中であった。また、受付についても総合受付制度をやめ、各科受付にすることで混雑の緩和を図るなどの改革も行っていることを聞いた。

東部地域の基幹病院ということからこの地域にある自治体病院等との連携、特に機能・役割分担について学んだ。この問題については、千葉県も協力しており、より具体的な機能・役割分担がなされていた。しかし、患者への周知が今後の制度のカギを握るように感じた。稲城市立病院を取り巻く環境においては、都立府中病院を中心とした医療圏の流れとなってくるように思われるが、機能・役割分担をしっかりと認識・運営した中で、更なる病病連携が重要となってくるものであると感じた。

こういった面で、今回の視察は十分に有意義なものであった。

③昨年スタンド改修した三市収益事業組合が運営する江戸川競艇場を見学に行った。

十数年前のバブル期のにぎやかさはなく、コアなファンが来場していただけであるが、きれいに改修されたスタンドや、運営にかかる機材などで、よりサービスの向上は図られたように感じた。

競艇事業は、収益事業として競艇事業で得た利益の一部から収益金として稲城市の一般会計に繰り入れられる。ここ数年、売上の大幅な減により、1000万円程度しか繰り入れられていない。この経済状況の中であっても、スタンド改修などハード面と共に、ソフト的な人的対応など更なるサービスの向上を図り、競艇事業の継続及び発展を祈るものである。

これからも注意深く見守っていくことが重要だと感じた。